

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方針	学校関係者評価	学校関係者評価
確かな学力	A	○全ての学年が取り組む学力調査で全国平均値+3P以上の学力を育成する	1. 基礎的な知識及び技能等の学力の定着 ・全国学力・学習状況調査で全国平均3P以上 ・高知県学力定着状況調査高知県平均3P以上	学向上のための組織的な校内研修体制づくり	①PDCAサイクルを回した学力の検証とそれに基づく計画的な学向上の実践を組織的に行う	①全国学力学習状況調査で全国平均値3P以上 ②高知県版学力定着状況調査で高知県平均値3P以上 ③学力調査における1判定の減少(全学年) H27:71.9%→H28:65.5%	①これまでの組織的な取組の継続 ②自校採点終了・結果まち(平均分布・ほぼ達成) ③授業がよくわかる児童91.7%、保護者91.1% ④家庭学習強い肯定H27:71.9%→H28:65.5%	・昨年度の課題は十分に達成されている。低学年では全国平均値よりやや低いものの、学年が上がるとして学力が高くなっている。学習を確実に積み上げることが継続し、高学年で達成できている。 ・本年度の取り組みの成果は子どもに分かる授業づくりでは、児童、教員、保護者共に、90%以上の評価は素晴らしい。自主学習の定着に期待して、得意さらに伸ばす。苦手克服する となることを期待する。予習80%は素晴らしい、主の取り組みはすべて達成されている。先生方が情熱を持って取り組んでおられる事を評価したい。	S
			2. ユニバーサルデザインの視点を取り入れた子どもが「わかる・できる」授業を実践する(教員、保護者、児童で85%以上) 3. 家庭と学校が連携して行う家庭学習のサイクル化、家庭学習の質が向上する 4. 図書や新聞を活用した教育実践を充実する	子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	①視覚支援等特別支援の視点に立った授業が実践されている ②授業スタンダードが確立している	①UDの視点を取り入れた授業ができている90%以上(教員評価、授業評価) ②授業がよくわかる(児童評価) ③あめと振り返りのある授業80%以上(教員評価)	①これまでの組織的な取組の継続 ②授業研究をこれまで通り1人2回以上行い、互いに授業について研究することを継続する	・次年度に向けての課題は、よりいっそう継続し、「自主学習の確立」「分かる授業」づくりを目指されることを期待する。課題の見られる学級についてはより根本的な要因を見つけて対処しないといけないと思う、今のような支援をずっと続けることも異常である。	
豊かな心	B	○夢や希望をもち、その実現をめざして努力する高い志や態度を育成する ○互いの違いや特性を理解し合い、協力によりよい生活をしようとする心や態度を育成する	1. 道徳、生活・総合的な時間の授業等の心の教育の充実を図り、児童の意識の向上、道徳的実践力の向上を図る 2. 温かな人間関係づくりを推進する 3. きめ細やかな教育を推進する 4. 外国語教育を推進する	①高知県道徳調査、香美市育ちのアンケート等で年度初めより年度末の意識が向上する ②QUアンケート活用により、学級改善を行う ③保小連携、小中連携、小中連携の交流学習を行う ④きめ細やかな教育の推進を行う(校内支援会の定期実施、関係機関と連携した教育の推進) ⑤外国語教育の在り方について学習し、授業研究を行う	①高知県道徳調査、香美市育ちのアンケート等で年度初めより年度末の意識が向上する ②QUアンケート活用による学級改善が行われた(教員評価100%) ③学校間連携交流学習ができた ④いじめ発生0、長期欠席者発生0 ⑤外国語アンケートの結果で年度初め(5月)より(12月)が児童、教員とも改善する	①全学年で道徳授業公開(地域に参観開放(学校実施済)) ・道徳研修会への参加(平成28年8月1日) ②2年生以外には学期と比べて2学期は向上 ③保研所、学校間連携(学校便り)(保研所、幼稚園、丹地区小学校、大南小学校、山田小学校) ・特に保小連携の推進 ④いじめ認定2件(不登校1件(家庭要因)) ⑤外国語活動研究発表会(1月25日英語・スライド資料)	①道徳教育については ・道徳学習の実施(全員授業公開) ・道徳研修会への参加(平成28年8月1日) ・「高知の道徳」の使用継続 ・掲示物による広報活動 ②Uの授業の更なる推進 ③交流学習の推進 ・特に鑑野中学校区の小中連携推進 ④いじめ0を目指すともにあたらしい学級づくりにより一層努める ⑤各関係機関と連携した長欠児童家庭支援の強化が必要である ⑥「外国語」の教科化に向け、本年度の取組を継続する	昨年度の課題が改善されたかについて、豊かな心は学校のみならず日頃の生活の中で多くの経験を通して育まれるものであり努力されている状況は認められる。 ・本年度の取り組みの成果として、いじめや長欠児童が出たのは、非常に残念。しかし、認定後の対応は素晴らしい。高学年になるほど、先生方も分りづらいついていじめが発生する可能性が高い。注意深く観察してほしい。 ・次年度についての課題は、この機会に学校全体の問題として捉え、より具体的な対策とともに豊かな心づくりに資していただきたい。今後の努力に期待する。 連携による交流学習(保小、小中、小)や外国語教育への取り組みを今後とも更に発展させてほしい	B
			1. 運動能力を更に向上させる(D、E判定の減少) 2. 外遊びの活性化を図り、体力を向上させる 3. 体育を通しての連携教育を推進する 4. 基本的な生活習慣の確立を図る	①スポーツテストに学校ぐるみ、地域の助力を得て運動能力を向上させる ②基礎的な体力を身につけさせるために外遊びを活性化させる ③体育を通しての鏡野校区の交流学習を進める ④生活・学習習慣アンケートの分析をもとに家庭と協力して基本的な生活習慣の確立を図る	①スポーツテストでD・Eの評価を減少させる(特に低学年) 「体育は楽しい」(児童90%以上) ②外遊びをしている(児童85%以上) ③体育を通しての交流学習ができた(鏡野校区の小学校と行う)	①低学年の体力向上(外遊び、スポーツテスト) ②外遊びは低学年が向上し、高学年が低下している。高学年は他の活動があり、できなかったことによると思われる。(70%生:生活リズムチェックカード10月) ③相模大会参加の奨励 ・運動大会は毎年、全ての学年から総勢20人から30人の参加あり ・ラインサッカー(4年生) ・バスケットボール教室(6年生)	①スポーツテスト、外遊びの奨励による体力づくり ②自分の足で歩いて登校することの再確認 ③生活リズムチェックカード使用による子ども、保護者による基本的な生活習慣の確立と生活習慣の見直しを定期的に行う ④鏡野中学校区の小学校のスポーツによる連携	・昨年度の課題は十分に達成されている。 ・本年度の取り組みの成果は、外遊びにより低学年は向上し、高学年は低下している。それに対しての取り組みは、非常に良いと思う。全体的に体力は向上しており、結果は良かったと思う。スポーツの方でも交流学習を取り入れて、良い経験となっている。 ・次年度に対しての課題は次年度も継続し、スムーズな中学生活の機軸しができることを期待する。 スポーツテスト、外遊びの奨励により体力づくりを継続、自分の足で歩いて登校することを奨励。家庭の協力が得られる。健全な生活習慣のため家庭との連携協力、生活リズムチェックカードの使用による基本的な生活習慣の見直しを定期的に行うことを期待する。	
保護者地域との連携	A	○保護者や地域住民とともに子どもを育成する教育活動を推進する	1. 「よってたかって地域が育てる教育」香美市キャリア教育の実践を学校支援地域本部等と連携して行う 2. 平成30年度にCS(コミュニティスクール)を実施する	①香美市の教育資源を使った授業の実践 ・物部川、香美市の生産物 ②CS導入のための研究を家庭、地域とともに進める	①成果を地域に発信することができた生涯学習教育発表会、香美市子ども祭物部川シンポジウム、エコ祭、香美市コラボフェア等で地域へ発信できた ②CSのリーフレットが完成し、地域に配布できた ③学校の教育活動への学校支援者300名以上	①3年生から6年生まで学習成果を地域発信できた(学校便り) ・山田祭り参加者100名 ・地域産品調査「かこね」を使用した給食メニューの開発をおこなった。開発メニュー「ネゴト」は11月9日の山田校区の給食で提供された。また、香美市子ども祭物部川への参加も実現した。 ②CSのリーフレットを完成させた。配布を行った。 ③6年生「リサイクル活動」で単身し獲得したCS推進委員会山田地区、CSのリーフレット完成2月中 ④3学校連携推進、学習支援(地域、工科大平、山田祭り、保研所)・参り活動でH27:60名・1月20日現在	①子どもへの学びを地域に発信することを継続する ②本年度の取組を進展させる。平成30年度からのCS開始に備える ・CS広報リーフレット完成(2月末) ③CSの活動と連携させて、学校教員への関わりを家庭・学校・地域で円滑に行うことができるよう運営組織と運営方法を平成29年度中に完成させる	・昨年度の課題は、おおむね達成されている。 ・保護者や地域の方が学校に協力して下さる事で、子ども達が大人になった時、同じような行動がとれる事になるよう期待する。総合的学習は非常に地域との連携が素晴らしい。着実に成果が出ている。子ども達の積極的な取り組みが、地域とのつながりに役立っている。学校からの情報発信力不足を感じる事もある。 次年度に向けての課題は、子どもの学びを地域に発信し続ける。この活動を発展させ、H30年度からは、CS開始に備える。CSについて保護者への説明が少ない。実施に向けて運営組織と運営方法を次年度中に完成させる。	A
			1. 子どもの自立をめざす安全教育の推進 2. 子どもの自立をめざす食育の推進	①災害、条件を変えて避難訓練3回以上、安全教育プログラム(5~6時間以上)の実施 ②関係機関と連携した安全教育の実施 ③子どもが自分で食事ができるようにする ・「炊飯」と「味噌汁」づくり(5年生) ・「自分で計画し、自分で作るお弁当(6年生)」 ④食の生活習慣の確立	①避難訓練3回以上、安全プログラムの授業(5~6時間)ができた(100%) ②防犯教室、万引き防止教室等が関係機関と連携してできた ③5年生(味噌汁、炊飯)、6年生(お弁当)の課題ができた(100%) ④朝食摂取率(100%) バランスよく食事をとる(40%以上)	①達成 ②達成 交通安全教室、防犯教室、非行防止教室、薬物・喫煙防止教室等 ③達成(授業実践資料) 1年生:食育と図書との関連指導(県図書大会で発表・別紙) 5年生味噌汁・炊飯(スライド) 6年生:自分でできるお弁当・朝食づくり ④達成(くずみ子NO.5) ・期には4月摂取率(98%) バランスよく摂れている(57%以上達成)	①災害発生状況を変えて実施する ②継続して行い、防災、減災の意識を継続して育てる ③食育を子どもの自立のための大切な要因として、5年生の自分で味噌汁・炊飯できる、6年生の自分で計画して自分で作るお弁当づくりは継続する ④「くずみ子」で定期的に啓発と調査結果還元を繰り返し、家庭の意識を高めることを継続する	昨年度の課題は十分に達成されている。 ・取り組みと達成がきちんと合致して成果を上げている。避難訓練を繰り返し行うことで、児童の災害時の対応が身に付き、また、防災への意識が高まっている。引き続きお願いしたい ・次年度に向けての課題は、発生状況を変えて、継続して訓練を行い、防災、減災の意識を育てることに期待。子どもの自立を目指す教育が100%なのは、素晴らしい事だと思う。定期的な啓発と調査結果還元を繰り返し家庭の意識を高めることを継続するという企画に期待する。	